

教育実習生&図書委員のおススメ本紹介

(図書館だより 令和5年 夏号 より)

『ウチら棺桶まで永遠のランウェイ』(kemio著) W.M

いろいろな問題が複雑に絡み合う世の中で生きていかなければいけない私たちが、自分らしく「私の、私だけの人生」を生きていく“勇気”をお裾分けしてくれるエッセイ本です。

著者のけみおさんが、嫌なことがあったときの考え方をたくさん共有してくれます。独特のギャル口調?で書かれていて、短文なので読書が苦手でも読みやすい一冊です。

「人生」についての話は少し押し付けが強い本が多いですが、この本は文体がゆるいので、押し付け感がなくて、「自分の生き方はダメなんだ」と思うことがないと思います。

私がこの本の中で好きな表現は、アンチに対して、「暇つぶしが独特~」って流して表現するところです。

全体的に自己肯定感爆アゲ系の話です。

人生自己肯定感爆アゲ、自分最高くらいのマインドで生きていきましょう。私自身肯定感低いので一緒に頑張ってください！

『君の余命が消えぬまに』(いぬじゅん著) K.N

私がリクエストして最初に入れて頂いた本です。前に私がおススメの本として紹介した「あの冬、なくした恋を探して」と同じ著者さんの冬シリーズの最新作です。あらすじは心臓病が発覚し、退職を決めた

いけうち はな
生内花菜は、最終日に同僚から都市伝説のような余命銀行の話を書く。親友とも心の距離を感じ落ち込んで

いた矢先、不思議な女性鈴本朋子と出会う。彼女が案内したのは、余命銀行だった!? 実在に驚きつつも、謎

めいた支店長・伊吹と黒猫ワトソン、朋子とそこで働くことにした花菜は、命を預けにくる人々に寄り添っ

『天国までの49日間』シリーズ（櫻井千姫著） K

自分がおススメする小説は、櫻井千姫さんの「天国までの49日間」というシリーズ小説です。自分がこれをおススメする理由は、命の大切さを学べると同時に、いじめがどれほどダメなのか考えさせられたり、その読む小説によって様々な事件のなぞを解いていけるからです。自分はこれを読んだ時、いじめがどれほど人を傷つけるのかや、様々な考え方を学んだりとすごく自分のタメになる本だと思いました。霊と一緒に事件のなぞを主人公の男の子と途中から女の子が入ってきますが、この本の特徴はなんといってもこの2人が霊と会話しつつ、人の為に動き、助けることです。

最近の世の中はすごくいじめが多いと聞きます。ですがいじめは、している方は楽しいかもしれないけど、されている方は苦しくなり学校に行けなくなったり、もしかしたら命を落としてしまうかもしれない、すごく怖いものです。そんないじめの怖さや、いじめがダメなことをこの本を読んで、学んでほしいです。